

特別賞

水の大切さ

港南小学校 六年 工藤奏美

私たち人間にとって水とは、生きてゆくために必要であるものだ。水が無ければ、植物が育たない。植物が育たなければ動物の食べる物が無くなり、動物の数が減る。そうすると人間の食べる物が無くなってしまふ。だから水は、生きてゆくためになくてはならない存在なのだ。

ではその水がとりまく影響とはどのような物なのか。まずあげられるのは氣候の事だろう。雲は水蒸気で出来ている。その水蒸気がたまるとそれが雨となり地上に降ってくる。また、季節が冬になると、雲の中の水蒸気が氷になりそれが降ってくる。それが雪だ。このように氣候には水が関係していることが分かる。次にあげられるのは食物連鎖の事だ。先程書いたように植物が減れば人間は生きては行けない。しかしこれは氣候も関わっている。なぜなら植物は水がなければ育たない。そうすると動物の食べる物が減り人間の食べる物も減る。また、この事は植物だけではなく、動物、人間にも言える事である。動物も人間も水分を体に取り込まなくては生きていけない。このように人間や生き物と水との関係は、つねにからみあっていると云える。

だが今の人々は、あまり水を大切にしようとはしない。川などにゴミを捨てたり、水を無だ使いしたりする。なぜ、そのような事をするのはなぜだろうとぎ問に感じる。しかし私にも思い当たるふしはいくつかある。例えばシャワーだ。出したままの時がある。あとは、飲み欠けで捨ててしまふ飲み物だ。飲み欠けの飲み物を捨てる事で少量ではなるが、水を消費している事になる。このまま気にせずに水を消費し続けると将来水が蛇口をひねっても出てこなくなってしまう。今、もうダムの水が去年より減っているなどの水不足の問題化している。このまま雨が降らなければダムの水位はあがらず先程書いた事が現実になってしまうかもしれない。

このような事がおきないように水の使う量を減らさなければならぬ。また、人々が水への関心を向け、少しでも環境を良くせねばと思えば水はきれいになるかもしれない。人々の関心を水に向け、水の使う量をいかに減らすかがこれからの日本の課題だと思ふ。